

浜松市在住の現代小説家 渥美饒児氏と七尾与史氏によるトークショー&サイン会 参加受付中

今開催している「浜松の幅広い文芸人たち ～浜松文芸の多彩なあしあとを辿る～」の展示にあわせて、現在活躍している浜松在住の小説家、渥美饒児氏と七尾与史氏によるトークショーとサイン会を企画しました。

お二人に、作品を世に出すまでの経緯や苦勞、小説を書くコツなどを、文芸館長の司会によって語ってもらいます。普段聞けない裏話が聞けるものと思います。

日時・場所等は下記のとおりです。ぜひご参加ください。

- 日 時 平成24年4月29日(日)
13:30～15:30
- 場 所 浜松文芸館 第1講座室
- 定 員 50名(先着順)
- 参加費 大人500円、高校生300円
- 申 込 電話・FAXで、郵便番号・住所・よみがな氏名・
電話番号をお知らせ下さい。
- 申込先 浜松文芸館
浜松市中区鹿谷町11-2
TEL・FAX(053)471-5211



渥美 饒児 氏



七尾 与史 氏

文芸館の四季

暖くなったり寒くなったりの気まぐれな春の天気には、花の咲く順番も例年と違っているような気がします。また、今年はおしなべて開花の時期が遅いのではないのでしょうか。

私が花だったら、「こんなに遅れてしまったのだから、今年は咲くのをやめておこう・・・」などと、ズルを決め込むところですが、さすがに自然は律儀なものです。



4月1日撮影

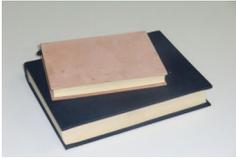
昨年は4月1日に初めて私が文芸館に来たとき、すでに満開になっていた桜が出迎えてくれました。早速ある句会の先生が、
新館長桜ふぶきを浴びに出ず

という句を詠んでくれて、うれしくなったのを覚えています。

今年も日毎に開花していく桜を見上げながら、早く満開にと待ちわびる気持ちと、楽しみを少しでも先に延ばしたいという気持ちが交錯している自分に気づきます。

お知らせ

- 職員の勤務の都合上、4月から8時45分前には館内に入れない場合がありますのでご了承ください。



浜松文学紀行 7

鴨江町 種田山頭火「其中日記」

漂泊の自由律俳人種田山頭火が4年ぶりに浜松駅に降り立ったのは、昭和 14 年4月 23 日夕刻であった。旧知の、「層雲」浜松支部機関誌「松」編集長の細谷野蔭の出迎えを受け、29 日の朝まで鴨江町の市営住宅、野蔭居に過ごすことになる。

25 日には、3年前山頭火を市内見物に案内した誠心高女(現・開誠館高)の教諭永井治雄が、10 人余の生徒を連れて野蔭居を訪れ、句会を開いている。翌日、木村緑平に「昨日ハ女学生中心ノ句会、今日明日ハ歓迎句会、それをすまして信濃路へ向ひます」と葉書を書き送っている。

浜松での山頭火の行動は、

- 24 日 16 時1分浜松着、同行の豊橋同人2人と共に4人の句会開催
- 25 日 女学生が食べ物や日本酒持参で訪問、句会。
- 26 日 1人で浜名湖めぐり(浜名湖東岸を伊左地方面へ)
- 27 日 野蔭居周辺散策、詳細不明
- 28 日 旧知の同人みどり居訪問。市内散策。夜歓迎・送別句会
- 29 日 8時の電車で二俣へ

26 日と 27 日は句のみの日記。(各 14 句)

多分来浜の翌日の 25 日、内田六楼と相談の結果、28 日に「松」の同人を集めて山頭火の歓迎と送別を兼ねた句会を開くことが決まったのであろう。野蔭が山頭火に「歓迎句会をして 20 円位の旅費ならつくるから」と言ったところ、その夜早速、市内の一流カフェへ行き、「サービス料を2円やった」と大変酔って帰って来たと、「層雲」の「山頭火追悼号」に野蔭は書いている。

山頭火の動向がはっきりしない 27 日の日記には、

燕したく今日の店をひろげる
 風の中うごいて蛙がつるんで蛙が
 ひなた伸びあがつてそよいでいたどり
 波音ばかりの空家ばかりで
 すみれたんぼぼゆつくりあるく
 崖藤のうつしき仰いでは行く
 山肌にじみでる水の飲むだけは

犬がいたづらに吠えて大樟クスノキの若葉かけ
 髪を梳く女あり牡丹かがやかに
 牡丹ちるや鬢ヒゲのほつれを掻きあげる
 お客といへば私一人の牡丹燃ゆる
 旅は落ちつかない欄竹ランチクの風
 それぞれみどりして親松小松
 芥アゲツクをあさるせなかのひなたあたたかく

禅僧でもあった山頭火だが、遊廓好きで前回の来浜の後伊豆一周をした際、3泊した伊東で「をなごやの春もにぎやかな青木の実」の句を残している。

伊東では金がなく花街を歩いただけだったが、浜松では明日確実に餞別が入ることがわかっていたので、持ち金をはたいて二葉園に登った可能性が高い。はっきり書いていないのは、戦時体制が格段に厳しくなっていたからであろう。伝馬町や旅籠町から鴨江の高台に遊廓が移って 16 年経っていた。

翌々日、山頭火は浜松をあとに念願の井上井月墓参のため伊奈へ旅立って行った。